

研究タイトル：豊かな建築空間と屋内外共用空間の創造



氏名：	吉岡 聡司／YOSHIOKA Satoshi	E-mail：	satoyoshioka@kochi-ct.ac.jp
職名：	教授	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	(一社)日本建築学会		
キーワード：	建築計画, 建築設計, ランドスケープ, まちづくり, ユニバーサルデザイン		
技術相談 提供可能技術：	・建築やまちづくり、ランドスケープの構想／計画作成、コンペ要綱作成への助言、審査等 ・バリアフリーやユニバーサルデザイン、ノーマライゼーションに関する設計方針や、考え方についての助言 ・サインやグラフィックのデザイン監修		

研究内容：

◆研究概要

豊かな建築空間や広場、街路空間と人の活動やふるまいに着目した研究を行っています。特に屋内外をつなぐ空間はコモン(共用空間)として重要であると考え、特に公共文化施設の共用空間のあり方と使われ方や人の感じ方の関係性に注目しています。また、高知の風土に適合する建築にも研究領域を広げていこうと考えています。

◆研究テーマと成果の例

(1)キャンパスの全体計画監修

2008～2022 年度、大阪大学のキャンパスの計画監修において多くの屋外空間、建築の基本構想～基本設計を担当しました。箕面キャンパス(旧大阪外国語大学)移転事業では、事業コンセプトの立案、設計の監修、行政・市民・企業等との折衝あるいは調整に中心的に関わり2021年に多くの先進的特徴をもつキャンパスが開学しました。



箕面キャンパスのコンセプト(吉岡作成)

グローバル^{※1}キャンパス 世界の言語と文化や社会に関する研究教育の集積拠点・外国人留学生教育を通して日本語・日本文化を世界に発信する拠点 (4) 旧外大の文化が受け継がれる空間づくり (5) 学生教職員と地域の人々との交流を誘発するオープンな空間づくり (6) 用途の複合性と開かれたデザインによる街区の表情豊かさ Walkability ^{※2}	(1) デッキや広場、ピロティを中心とする開かれた配置とデザイン (2) 市立の図書館と生涯学習センターの管理運営を大学がになう(国大で日本初) (3) 地域のまちづくりの議論を設計以前から展開 Osaka University Global Campus 箕面キャンパス 「地域に生き世界に伸びる」大学の理念を体現	リビングラボラトリ・スマートキャンパス 大学自体が社会の中で生きた実験室として機能するという考え方のもと共同研究のみならず様々な新たな取り組みにチャレンジ (7) 研究講義棟で世界的環境認証制度 LEED の NC (新築カテゴリ) ゴールド取得 (8) LEED-ND (まちづくりカテゴリ) ゴールド取得 (9) スペースを圧縮しつつ極限まで有効活用
サステナブルキャンパス SDGs に示されるような省エネ省資源に止まらない広義の持続可能性追求と、まちづくりへのコミットをはじめ多様な実験的取り組み		

※1 グローバルとは「グローバル」と「ローカル」を組み合わせた造語。 ※2 Walkability とは、まちの歩きやすさや歩く楽しさのこと。

(2)公共施設の計画に関する監修、助言、審査等

2015年に竣工した西宮市こども未来センターの建設については、肢体不自由児通所施設である西宮市立わかば園(現在はこども未来センターの一部)の施設整備事業基本構想に係る調査・研究等業務委託に中心的に関わって利用者や関連施設の綿密なヒアリング等調査をまとめ、設計プロポーザルの審査でも副座長を勤めました。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	